

2022年5月19日 全8頁

Indicators Update

2022年4月貿易統計

輸出金額、輸出数量ともに中国向けが足を引っ張る

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2022年4月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+12.5%と14カ月連続で増加したものの、コンセンサス（同+13.9%）を下回った。輸入金額はエネルギー価格の高騰などを背景に同+28.2%と大幅増が続いている。これを受け、貿易収支は▲8,392億円となった。季節調整値では1兆▲6,189億円と、比較可能な2012年5月以降では2番目に大きな赤字幅となった。
- 4月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲2.5%と、3カ月ぶりに減少した。米国向け（同▲4.4%）やEU向け（同▲4.0%）で前月の急増からの反動が見られた一方、アジア向け（同+0.8%）は増加に転じた。ただし、中国向けに限れば2カ月連続の大幅減となった。
- 先行きの輸出数量は伸び悩みが継続するとみている。ゼロコロナ政策を掲げる中国では当面厳しい新型コロナウイルスの感染防止措置が取られるとみられ、引き続き日本から中国向けの輸出は低迷しよう。今後は、中国での感染の抑え込みの動向が日本の輸出の回復時期を左右する。また、中国経済の鈍化やウクライナ危機が世界経済を圧迫し、間接的に日本の輸出の下押し要因となる可能性にも注意が必要だ。

【貿易金額】輸出金額は増加も実勢を表す輸出数量は減少

2022年4月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+12.5%と14カ月連続で増加したものの、コンセンサス(同+13.9%)を小幅に下回った(図表1)。新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた中国向けの輸出金額が3カ月ぶりに前年割れし、全体の足を引っ張った。季節調整値では前月比+1.0%と2カ月連続で増加したが、輸出の実勢を表す輸出数量は伸び悩んでいる(図表2左)。既往の半導体不足などに加え、中国での感染拡大による経済活動の制限がグローバルサプライチェーンに更なる打撃を与えたことで、全体としては弱い結果となった印象だ。

輸入金額は前年比+28.2%と大幅増が続いている。品目別では、高騰している原油及び粗油や液化天然ガス、石炭といったエネルギー品目が押し上げた。輸入金額を季節調整値で見ると、前月比+7.9%と4カ月連続で増加した。輸入金額の変動を数量・価格に要因分解すると、輸入価格(大和総研による季節調整値)は同+8.5%と大きく伸びた一方、輸入数量(同)は▲0.5%と減少が続いている(図表2右)。このところ急増していた医薬品が減少に転じており、新型コロナウイルスワクチンの調達の動きが一服したとみられる。

貿易収支は▲8,392億円と9カ月連続の赤字であった。季節調整値で見ると▲1兆6,189億円と、比較可能な2012年5月以降では2番目に大きな赤字幅となった(図表3)。なお、税関長公示レートは122.84円/ドル(前年比+12.1%の円安)と急速に円安が進んでいるものの、上述の通り輸出数量は伸び悩んでいる。円安による輸出促進効果が低下しているとみられ、今後も一段と円安が進んだとしても輸出数量が急増する可能性は低い。

図表1：貿易統計の概況

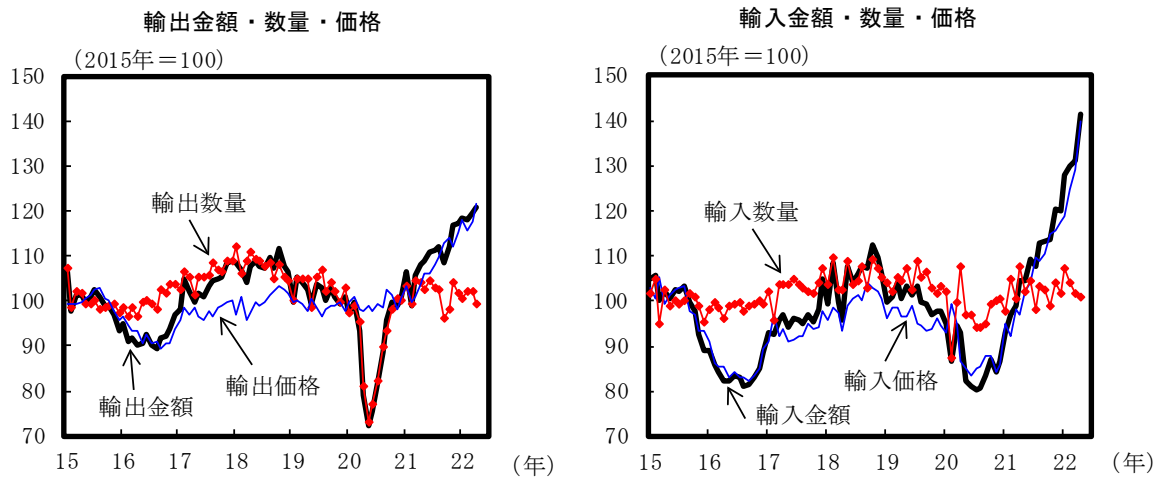
		2021年					2022年				
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
原系列 前年比 %	輸出金額	26.2	13.0	9.4	20.5	17.5	9.6	19.1	14.7	12.5	
	コンセンサス									13.9	
	DIRエコノミスト予想									13.8	
	輸入金額	44.7	38.4	26.8	43.8	41.2	38.8	34.2	31.2	28.2	
	輸出数量	13.7	3.2	▲2.6	4.7	2.0	▲4.0	2.7	▲1.4	▲4.4	
	価格	11.0	9.5	12.3	15.1	15.2	14.1	15.9	16.3	17.7	
	輸入数量	14.5	7.5	▲3.0	6.1	1.0	4.8	▲0.9	0.0	▲9.0	
季節 調整値 前月比 %	価格	26.4	28.8	30.8	35.6	39.8	32.4	35.3	31.2	40.9	
	貿易収支(億円)	▲6,534	▲6,369	▲750	▲9,569	▲5,889	▲21,994	▲6,772	▲4,141	▲8,392	
	輸出金額	0.8	▲3.4	3.4	4.2	0.6	1.0	▲0.5	1.6	1.0	
	数量	▲0.6	▲6.3	2.4	5.8	▲2.2	▲1.3	1.6	0.0	▲2.5	
	価格	1.4	3.0	1.0	▲1.5	2.9	2.3	▲2.1	1.6	3.6	
	輸入金額	4.7	0.5	0.4	5.9	▲0.3	6.4	1.7	1.0	7.9	
	数量	5.4	▲1.1	▲3.2	5.2	▲2.3	5.4	▲3.0	▲2.4	▲0.5	
価格	▲0.6	1.6	3.7	0.7	2.0	1.0	4.9	3.4	8.5		
	貿易収支(億円)	▲2,917	▲5,716	▲3,670	▲5,102	▲4,404	▲8,729	▲10,568	▲10,194	▲16,189	
	税関長公示レート	109.89	109.87	111.42	113.95	113.95	114.82	114.84	115.86	122.84	

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

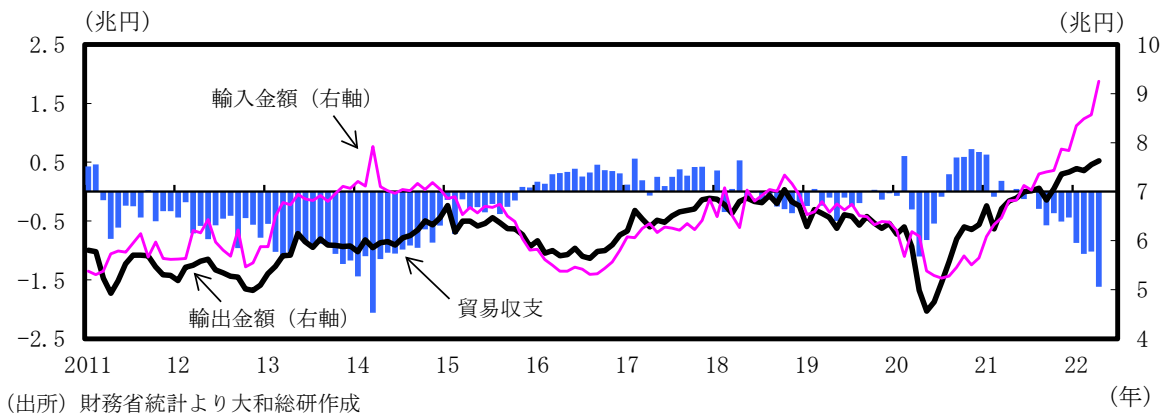
(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

図表 2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



図表 3：輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



【輸出数量】中国向けの2カ月連続大幅減と欧米向けの反動減で全体は減少

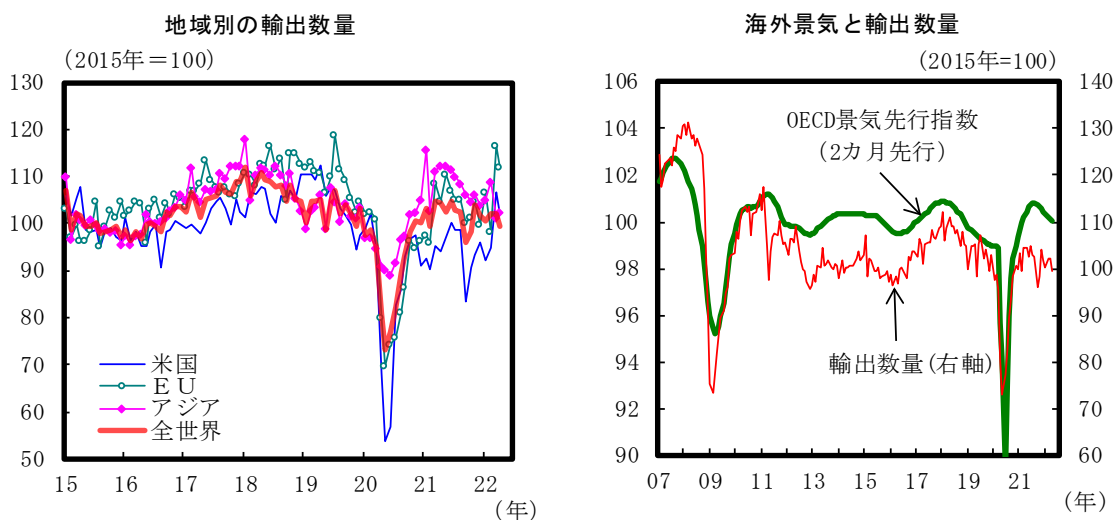
4月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲2.5%と3カ月ぶりに減少した。前月に急増していた米国向け（同▲4.4%）やEU向け（同▲4.0%）で反動減が見られた。アジア向け（同+0.8%）は増加に転じたが、中国向け（同▲10.2%）に限れば2カ月連続で大幅なマイナスとなった。

米国向けは2カ月ぶりに減少した。前月に全体をけん引していた自動車の部分品、原動機、電算機類の部分品などで反動減が見られた。他方、2022年に入って以来減少が続いていた自動車では持ち直しの動きが見られた。水準で見れば、東南アジアでの感染拡大による減産からの回復途上にあった2021年11月と同程度の水準であり、依然として回復の余地は残されている。

EU向けは2カ月ぶりに減少した。電算機類の部分品やプラスチックなど、前月に増加に寄与していた中間財で反動減が見られた。他方、自動車や半導体等製造装置、鉄鋼といった要の品目は堅調に推移している。EU向け全体で見た輸出数量は、感染状況の改善などを背景として高水準にあり、基調は悪くない（図表4左）。とりわけ半導体等製造装置の輸出は過去最高水準を更新し続けており、半導体需要の根強さや地政学リスクを意識したサプライチェーンの分散化の動きが追い風となっているようだ。

アジア向けは小幅ながら2カ月ぶりに増加した。非鉄金属や自動車、同部分品などの主力品目が押し上げた。4月はアジア全体で見た新規感染者数が減少したこと、各国の経済正常化などが日本からの輸出増に寄与したとみられる。他方、中国向けは一部都市でのロックダウン（都市封鎖）など経済活動の制限を背景に中間財や資本財の大幅減が続いている。とりわけ集積回路（IC）、鉄鋼、プラスチックなどウエイトの大きい品目が2カ月連続で減少した。主力品目の一つである半導体等製造装置も低迷が続いており、全体の足を引っ張っている。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数 (CLI) はOECD諸国とBRICsなど非加盟6カ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

【見通し】輸出数量は低迷が継続、回復の時期は中国次第に

先行きの輸出数量は伸び悩みが継続するとみている。世界経済は着実にコロナショックから正常化へと向かっているが、中国での感染拡大が水を差している格好だ。ゼロコロナ政策を掲げる中国では当面厳しい感染防止措置が取られるとみられ、引き続き日本からの輸出の低迷要因となろう。また、中国経済の減速に伴う世界経済の鈍化やウクライナ危機による資源高¹なども懸念材料だ。とりわけ欧米などの主要な輸出先の景気が下押しされれば、間接的に日本の輸出も押し下げられるだろう。とはいえ、中国ではロックダウンの解除に向けた議論も始まっており、上海市は2022年6月のロックダウン解除を目指している。中国全土での感染の抑え込みがいつ成功するかが、日本の輸出の回復時期を左右するだろう。

輸出の先行きを地域別に見ると、米国向けは緩やかな増加基調を辿ったのち、高インフレなどを背景に下振れするとみている。米国では2022年1-3月期の実質GDP成長率が前期比年率▲1.4%とマイナスに転じたが、柱である個人消費や設備投資は堅調で、輸入も大幅に増加した。当面は力強い内需が日本からの輸出を呼び込むだろう。他方、FRBによる利上げがラグを伴って消費や設備投資を抑制する可能性や、足元で緩やかに感染が再拡大していることなどを踏まえると、徐々に対米輸出の減少リスクが顕在化するとみられる。

欧州向けは緩やかに減少し、3月から4月にかけての急増分を徐々に解消するとみている。半導体等製造装置の好調により足元の輸出数量は高水準にあるが、ウクライナ危機や中国の景気減速といった不確実性が強い中で、企業の積極的な設備投資が今後も継続するとは考えにくい。資源高や供給制約を背景にユーロ圏の成長率は伸び悩んでいることから、半導体等製造装置に代わる強力なけん引役の登場にも期待できず、足元の高水準は長続きしないと想定される。

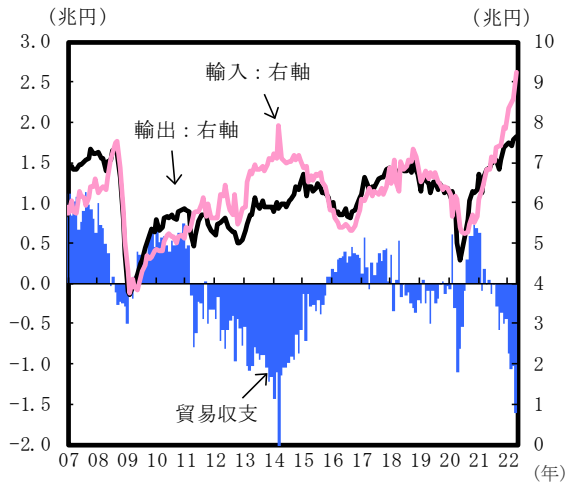
中国向けは減少が続くとみている。中国の4月鉱工業生産は前年比▲2.9%と急激に悪化しており、中国国内での生産活動が厳しく制限されていることが窺える。とりわけ対中輸出の柱である中間財や資本財の輸出は大きな影響を受けるだろう。また、中国国内での部品生産、組み立て、輸送といった経済活動が抑制されることで、サプライチェーン全体に影響が広がりつつある。実際、衛星画像に見る物流などでは混乱が鮮明となっているようだ²。部品の供給や輸送が滞り、供給制約という形で日本国内での生産や輸出を下押しする可能性にも注意が必要だ。

¹ 詳細は拙稿「[ウクライナ危機による資源高の影響](#)」（2022年5月16日、大和総研レポート）を参照。

² 「[中国都市封鎖による経済への影響、衛星画像で鮮明に一公式統計悪化も](#)」（2022年4月28日、Bloomberg）

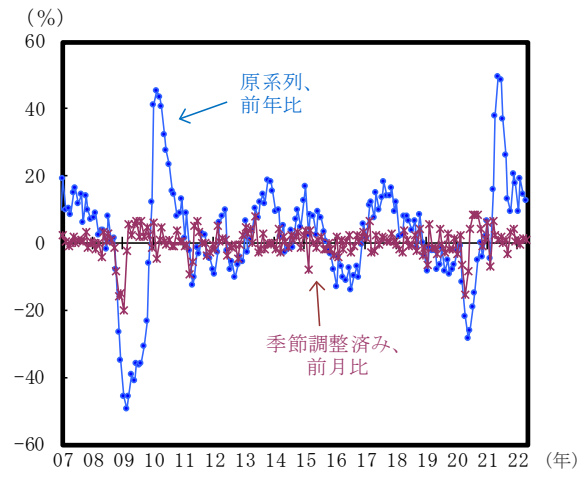
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

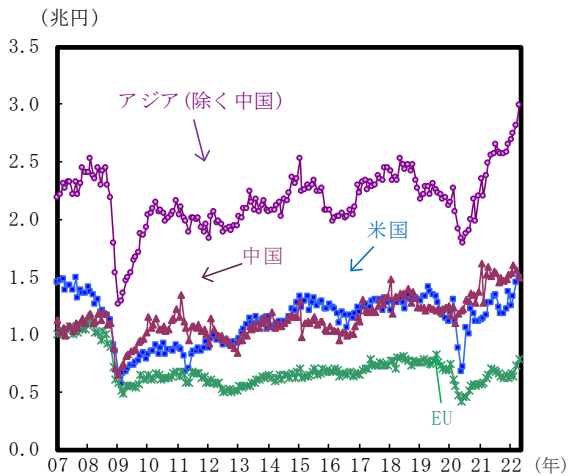


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

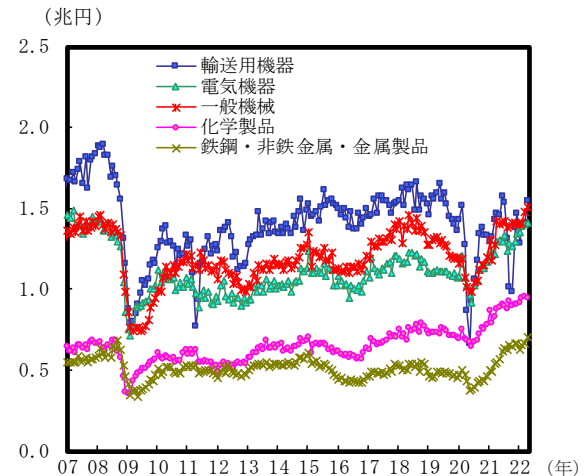


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

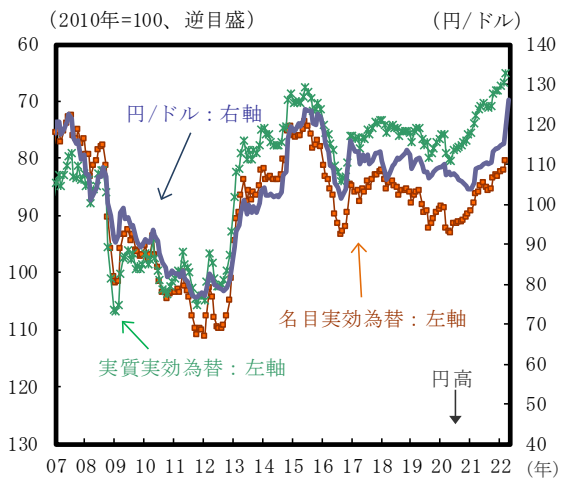


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

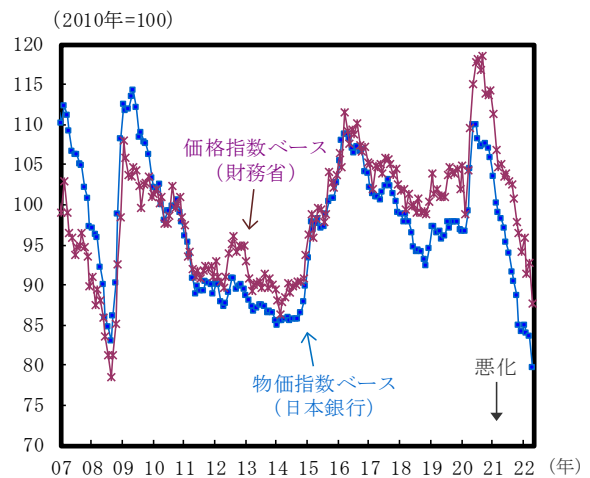


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	20.5	17.5	9.6	19.1	14.7	12.5	100.0	12.5
食料品	18.5	21.3	2.2	18.3	6.3	14.0	1.2	0.2
原料品	26.1	12.1	▲0.6	13.6	5.2	4.0	1.8	0.1
鉱物性燃料	166.4	84.2	111.2	139.3	90.5	132.0	1.8	1.1
化学製品	20.2	15.6	5.8	19.8	15.7	8.5	12.8	1.1
原料別製品	44.4	35.5	20.0	31.1	21.4	24.3	12.3	2.7
鉄鋼	87.7	75.1	47.0	45.5	38.8	37.1	4.7	1.4
非鉄金属	27.7	26.1	18.0	32.5	8.5	26.4	2.6	0.6
金属製品	11.2	6.0	▲8.3	13.7	8.7	7.8	1.5	0.1
一般機械	22.6	17.6	7.1	19.7	15.8	6.6	19.1	1.3
電気機器	14.3	15.0	8.4	16.0	15.6	8.7	17.3	1.6
半導体等電子部品	20.8	25.9	14.0	21.4	16.0	9.6	5.3	0.5
I C	20.3	26.9	15.0	23.4	16.4	8.7	3.5	0.3
映像機器	▲10.5	▲8.4	91.7	77.4	85.4			
映像記録・再生機器	▲11.5	▲8.1	8.9	1.3	▲0.9	▲3.7	0.3	▲0.0
音響・映像機器の部分品	7.2	2.9	▲9.3	8.7	13.0	▲21.6	0.2	▲0.1
電気回路等の機器	10.0	10.1	1.4	11.8	10.5	7.9	2.4	0.2
輸送用機器	4.3	10.2	▲0.5	4.3	▲1.2	4.9	19.0	1.0
自動車	4.1	17.6	▲1.0	8.3	▲5.2	4.8	12.9	0.7
自動車の部分品	0.7	▲0.3	3.6	3.2	11.8	3.1	4.3	0.1
その他	29.5	16.6	18.2	27.8	27.1	25.7	14.6	3.4
科学光学機器	26.8	14.1	▲2.4	6.2	0.5	5.7	2.5	0.1

米国向け輸出金額 内訳								
	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	10.0	22.1	11.5	16.0	23.8	17.6	100.0	17.6
食料品	18.9	48.8	19.7	27.1	63.2	39.1	1.1	0.4
原料品	6.7	21.9	▲16.2	▲39.3	3.4	18.3	0.8	0.1
鉱物性燃料	739.5	100.4	559.9	2709.1	1007.5	228.7	0.7	0.6
化学製品	26.3	13.5	25.4	12.0	67.1	20.5	8.6	1.7
原料別製品	28.1	36.0	8.8	18.8	39.9	43.3	7.6	2.7
鉄鋼	70.6	121.6	38.1	19.1	91.8	87.0	1.5	0.8
非鉄金属	52.5	74.2	45.6	47.9	21.8	57.3	0.9	0.4
金属製品	0.2	▲1.2	▲24.8	6.6	22.9	12.4	1.7	0.2
一般機械	20.4	35.0	29.2	27.1	37.2	23.3	25.3	5.6
電気機器	21.8	26.8	12.3	10.9	25.9	8.7	13.5	1.3
半導体等電子部品	21.9	24.9	17.5	31.2	3.4	19.0	1.4	0.3
I C	22.3	12.9	14.9	42.5	▲4.6	10.9	0.6	0.1
映像機器	▲12.2	0.6	19.1	15.9	23.6			
映像記録・再生機器	▲14.3	▲5.8	16.1	▲0.7	21.9	▲14.0	0.5	▲0.1
音響・映像機器の部分品	74.2	10.1	▲32.2	8.3	31.4	▲62.2	0.1	▲0.2
電気回路等の機器	13.1	13.4	▲2.8	▲7.0	2.1	4.0	1.4	0.1
輸送用機器	▲8.7	10.4	▲2.3	10.1	▲5.4	9.4	30.6	3.1
自動車	▲11.5	11.9	▲0.2	16.2	▲16.7	10.9	23.2	2.7
自動車の部分品	13.4	12.1	▲1.2	▲1.4	41.7	6.6	5.8	0.4
その他	24.7	25.7	9.9	14.0	40.5	17.6	11.6	2.0
科学光学機器	17.8	35.9	19.3	16.1	20.3	31.5	2.7	0.8

EU向け輸出金額 内訳								
	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	16.4	9.7	16.1	8.8	16.8	19.1	100.0	19.1
食料品	47.7	41.8	49.9	4.8	46.2	32.0	0.6	0.2
原料品	46.9	11.7	31.5	28.6	22.1	24.4	0.9	0.2
鉱物性燃料	55.0	13.3	0.2	32.7	170.2	344.9	0.6	0.5
化学製品	19.2	9.0	11.5	6.1	23.8	15.1	13.4	2.1
原料別製品	42.0	24.5	43.9	39.6	34.1	44.6	8.7	3.2
鉄鋼	140.1	162.1	203.8	176.9	66.5	188.9	3.2	2.5
非鉄金属	46.1	18.6	93.2	9.0	17.2	23.4	0.9	0.2
金属製品	19.8	▲11.5	▲15.5	3.8	14.4	10.4	1.4	0.2
一般機械	18.0	9.2	16.6	21.7	31.7	33.8	25.7	7.7
電気機器	5.8	▲5.6	11.8	2.8	6.2	7.4	16.5	1.4
半導体等電子部品	13.4	15.4	15.0	14.1	14.5	15.2	2.2	0.3
I C	9.0	14.4	10.1	31.4	21.8	12.8	0.9	0.1
映像機器	▲11.8	▲33.9	11.5	12.4	▲6.0			
映像記録・再生機器	▲11.4	▲33.3	1.5	9.3	▲24.3	▲12.1	0.6	▲0.1
音響・映像機器の部分品	55.7	11.2	7.4	▲10.1	11.5	▲21.8	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	24.8	3.3	16.7	23.2	15.3	11.2	1.6	0.2
輸送用機器	3.0	12.7	▲6.5	▲17.5	▲1.0	▲1.2	19.1	▲0.3
自動車	17.9	50.0	▲12.4	▲24.0	▲19.0	▲0.9	10.4	▲0.1
自動車の部分品	▲36.4	▲39.4	▲9.4	▲13.1	▲3.0	▲4.5	5.6	▲0.3
その他	35.3	19.5	49.8	28.4	19.9	31.0	14.6	4.1
科学光学機器	40.3	9.2	40.3	25.7	36.9	43.4	4.4	1.6

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	24.7	16.6	6.3	25.2	12.4	10.3	100.0	10.3
食料品	18.7	14.9	▲4.6	17.7	▲4.5	10.1	1.5	0.2
原料品	27.5	10.9	▲0.6	19.9	3.8	1.7	2.7	0.0
鉱物性燃料	128.7	27.8	49.9	89.8	64.4	86.3	2.0	1.0
化学製品	19.8	14.3	0.6	23.7	9.3	4.4	15.8	0.7
原料別製品	45.6	35.9	17.5	34.8	16.3	21.4	14.8	2.9
鉄鋼	92.2	72.2	39.2	45.8	34.3	28.2	5.8	1.4
非鉄金属	26.0	24.8	15.8	37.8	2.7	28.3	4.0	1.0
金属製品	14.5	11.2	▲3.4	17.6	5.1	6.1	1.6	0.1
一般機械	23.6	12.9	▲4.7	18.1	6.4	▲4.8	17.3	▲1.0
電気機器	14.4	16.0	7.2	19.8	15.7	9.8	21.3	2.1
半導体等電子部品	20.7	26.0	13.7	21.2	16.5	8.5	8.4	0.7
I C	20.3	27.6	15.1	22.6	16.9	8.1	5.8	0.5
映像機器	▲1.3	4.3	224.1	219.6	221.2			
映像記録・再生機器	▲2.4	10.0	8.1	1.2	0.1	10.8	0.2	0.0
音響・映像機器の部分品	▲13.1	▲7.8	▲12.5	0.6	▲3.0	▲16.7	0.3	▲0.1
電気回路等の機器	9.1	10.6	1.0	13.4	10.5	9.8	3.2	0.3
輸送用機器	8.2	5.3	1.4	17.7	1.3	7.5	8.1	0.6
自動車	3.4	17.3	▲5.0	13.7	0.8	▲5.2	4.2	▲0.3
自動車の部分品	3.5	6.3	9.7	11.7	7.6	14.3	3.0	0.4
その他	33.4	15.8	14.6	34.9	19.9	25.3	16.6	3.7
科学光学機器	25.6	10.8	▲15.9	▲0.6	▲12.5	▲8.4	2.5	▲0.2

中国向け輸出金額 内訳								
	2021/11	2021/12	2022/01	2022/02	2022/03	2022/04		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	16.0	10.8	▲5.4	25.8	2.9	▲5.9	100.0	▲5.9
食料品	25.2	16.2	3.6	42.5	20.9	23.9	1.5	0.3
原料品	42.3	4.3	7.1	67.9	▲5.1	▲4.2	2.6	▲0.1
鉱物性燃料	39.2	25.4	▲51.4	▲25.1	2.2	100.2	1.0	0.5
化学製品	22.1	15.1	▲9.5	40.9	4.3	▲1.0	17.9	▲0.2
原料別製品	26.8	23.1	▲3.0	39.0	4.3	4.7	12.9	0.5
鉄鋼	47.3	48.8	3.8	58.7	26.1	▲0.3	3.6	▲0.0
非鉄金属	25.2	22.9	▲2.6	30.6	▲19.4	12.2	4.2	0.4
金属製品	14.0	10.0	▲5.6	16.6	4.3	▲1.9	1.7	▲0.0
一般機械	22.7	5.6	▲11.1	20.2	▲4.6	▲25.7	19.8	▲6.4
電気機器	14.3	17.0	7.0	27.4	16.7	7.9	22.8	1.6
半導体等電子部品	25.3	28.7	18.0	24.4	10.5	▲1.0	6.2	▲0.1
I C	31.4	32.3	24.1	27.0	5.1	▲4.6	3.8	▲0.2
映像機器	▲9.4	▲4.8	269.7	320.2	301.9			
映像記録・再生機器	▲10.6	2.3	▲0.9	▲16.3	▲12.8	▲14.4	0.3	▲0.0
音響・映像機器の部分品	▲38.8	▲22.3	▲29.6	▲6.6	▲11.5	▲28.7	0.4	▲0.1
電気回路等の機器	5.0	13.0	▲1.0	24.5	15.0	11.1	3.9	0.4
輸送用機器	▲8.9	14.9	▲3.5	6.6	▲7.0	▲10.0	9.8	▲1.0
自動車	▲8.3	30.6	▲9.0	7.8	▲8.4	▲12.2	5.9	▲0.8
自動車の部分品	▲10.6	▲4.6	6.8	3.1	▲5.5	▲4.5	3.7	▲0.2
その他	8.0	▲6.0	▲12.8	13.3	0.4	▲8.4	11.7	▲1.0
科学光学機器	14.3	0.0	▲25.5	▲1.1	▲15.4	▲22.3	3.0	▲0.8

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成